

ジャパネット杯 平成27年度 第39回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

き

男子 ・ 女子 1 回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 グリーンアリーナ神戸 A コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名
県立八千代	15	7	14	県立鹿児島南
		8	17	
		—		
		—		
		—		
		7mTC		

八千代のスローオフから開始。先制点は八千代 14 番のセンター（井熊野）からのカットイン。両者決

め手がないままに、一進一退の攻防が続き開始 15 分を経過し 4 対 3。その後、鹿児島南②(吉留)がペナル

ティスローを決めて 5 対 3。さらに⑤（寺師）がサイドから決めて 5 対 3。順調に得点を重ね 7 対 3 ま

でリードを広げる。八千代も徐々にペースをつかみ、21 分を経過後、7 対 5 まで差を縮めるものの、また鹿

児島南に盛り返されて連続得点を許し、25 分経過後、11 対 5 と劣勢の状況が続く。鹿児島南優位

のまま進行し 14 対 7、鹿児島南のリードで前半を終了。後半開始後も、鹿児島南が⑤（寺師）⑨（抜水）

のシュートが連続して決まり 16 対 7。八千代も⑭（井熊野）が決めて 16 対 8。しかしその後は前半同

様に、終始、鹿児島南優勢で推移。多彩な攻撃で、連続得点し 15 分を経過した時点で 24 対 8 と圧倒的優

位に立った。八千代もタイムアウトを取り、セットプレーから 1 点を取りに行くも得点に至らず次の 1 点が

取れないまま 27 対 8。八千代も意地を見せ⑮（白鳥）の活躍で得点を返すも、31 対 15 で鹿児島南が圧勝。

2016 年 3 月 24 日

記載者氏名 正田 慎

ジャパネット杯 平成27年度 第39回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

く

男子 女子 1 回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 グリーンアリーナ神戸 B コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名																		
川崎市立高津高等学校	22	<table border="1"> <tr><td>11</td><td>—</td><td>5</td></tr> <tr><td>11</td><td>—</td><td>4</td></tr> <tr><td>—</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>—</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>—</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7mTC</td><td></td><td></td></tr> </table>	11	—	5	11	—	4	—			—			—			7mTC			9	県立今治東中等教育学校
11	—	5																				
11	—	4																				
—																						
—																						
—																						
7mTC																						

今治東のスローオフで始まりすぐに高津の3番がシュートで点を取ると今治東も直後に取り返し5分

までは3-2であった。今治東に退場者がでたが、どちらの点にもつながらなかった。しばらくは

一進一退が続くが今治東の攻撃を高津が積極的なディフェンスで防ぎ、そこからの速攻で徐々に点差

を広げた。特に高津は3番が速攻、カットイン、ミドルシュートなどで6得点を取るなど攻守に活躍

が目立ち、前半は5-11で終えた。

後半立ち上がりは今治東が連続2得点を取りさらにPTのチャンスがあったが点にならなかった。

その後高津の3番がミドルシュートで2点取り点差を戻した。さらに速攻で1番が点を取り11分

には7-14となった。その後高津の積極的なディフェンスが速攻につながり5点を続けてとった。

その間に今治東は7番のサイドシュートで1点を取ったが点差は広がっていった。

22分には今治東に退場者が出たが少ない人数にもかかわらず積極的にパスカットを狙い1点を

取った。点差は開いたがどちらもよく動く好ゲームであった。

2016年 3月 24日

記載者氏名 岩本 和真

戦 評 用 紙

男え

男子 ・ 女子 1 回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会 場 神 戸 市 立 中 央 体 育 館

コ ー ト

チーム名	総得点		総得点	チーム名																					
國學院栃木	33	<table border="1"> <tr><td>15</td><td>—</td><td>16</td></tr> <tr><td>18</td><td>—</td><td>14</td></tr> <tr><td>—</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>—</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>—</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>—</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7mTC</td><td></td><td></td></tr> </table>	15	—	16	18	—	14	—			—			—			—			7mTC			30	岩国
15	—	16																							
18	—	14																							
—																									
—																									
—																									
—																									
7mTC																									

1回戦、國學院栃木（栃木）対岩国（山口）の試合は、岩国のスローオフで始まった。立ち上がり、岩国2番のシュートが決まり先制した。その後、取られたら、取り返すという、一進一退の攻防が続いたが、両チームGKの好セーブもあり、互いに大きなリードには至らなかった。この間、栃木は相次いで2名が退場となる時間帯もあったが、岩国はこのチャンスを活かせなかった。終盤、スピードのある動きで点を取り合い、前半は、16：15岩国1点リードで折り返した。後半はたちあがり、栃木6番のシュートが決まり、試合は振り出しに戻ったが、岩国は、14番、15番を中心にシュートを決めリードを許さなかった。しかし18分過ぎ、岩国のノーマークシュートを栃木GKが好セーブした後、栃木の勢いがまさり、俄然栃木ペースの試合運びとなった。21分過ぎには28：28と追いつき、さらにリードを奪い、そのまま33：30で逃げ切った。

平成 28 年 3 月 24 日

記載者氏名 小川 健三

ジャパネット杯 平成27年度 第39回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

け

男子 1 回戦

会場 神戸国際大学附属高等学校体育館

コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名
九州学院	20	9	10	愛知
		11	15	
		7mTC		
			25	

九州学院のスローオフで始まったこの試合は、愛知の堅い守りから生まれた速攻で愛知が先制。

その後両チームキーパーの好セーブや、確率の低い場所に追い込むディフェンスで互いに得点が

伸びない。10分経ってスコアは2-2。その後、愛知高校の速攻による連続得点で2点を取り

ゲームが動き出す。九州学院は、愛知のしぶといディフェンスになかなかシュートが打てず、

パッシブプレーに持ち込まれる場面が増え、18分に九州学院・重村監督がタイムアウトをとる。

監督の助言を聞いた九州学院はポジションプレーによって同点に追いつく。その後一進一退の攻防が

続き、愛知高校が1点リードして前半を折り返す。

後半は愛知が速いパス回しからのミドルシュートで2点差とし、スタートする。その後九州学院に

退場者が出るも素早いフットワークと強い当たりでこれをカバーし2点差が続く。11分、愛知が

攻撃的ディフェンスシフトから速攻で3点連取し点差を5点とする。16分には九州学院が

3:3ディフェンスにシフトし反撃を図り3点差に迫るが、愛知も効果的なトランジションから得点。なかなか点差が縮まらない。このまま愛知が逃げ切り、25-20で激戦を制した。

2016年 3月 24日

記載者氏名 穂積 謙太郎